



# だっこするよ

令和3年6月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

## 自然とのふれあいから育つ力

紫陽花が雨に濡れて美しく咲いています。梅雨入りもそろそろでしょうか。子どもたちは今日も元気に自然の中へ中へと出かけています。自然は、毎日新しい出会いを用意してくれていて、探究心旺盛な子どもたちを楽しませてくれます。風で揺らぐ木々たち、太陽に向かって咲く野の花、川を流れる水の音、でこぼこの草地、心を開放してたっぷり遊び始めます。五感を通して感性が豊かに育っていく時間です。

保育方針3番目は「自然体験を大切にします」です。地元の赤羽自然観察公園を中心に清水坂公園、赤羽台公園、緑道公園など自然遊びの環境に恵まれて毎日楽しんでます。

レイチェル・カーソンの著書「センス・オブ・ワンダー」の中で「『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要でない」と書かれています。言葉で教えられることよりも実際に自分で味わい、体験すること、五感で感じるものが何よりも大切であると。著者の自然への畏敬の念が伝わってきます。感性は、身近な生活の中で十分に遊び、触れあい、心を揺さぶられる何かを感じ、考えさせられるものに出会うことから養われます。無数の生き物たちの出会いも子どもたちの大きな喜びです。土の中に住むミミズやダンゴムシ、羽を持つ蝶もテントウムシもみんな摘まんで触って命の温かみを感じています。動き回る生命に出会った瞬間、驚き固まる子もいます。感動の表現もそれぞれですね。赤羽自然観察公園の川で釣ってきたカニやザリガニたちも、私たちも地球の一部、今、動いていること、食べていること、生きていることを感じて欲しいです。自然は出会えば出会うほどに問いも答えも無限で、その子の体験から湧いてくるのだと思います。自然は不思議さ、神秘さの教材の宝庫ですね。

「自然がなぜ大切なのか？ もし自然に触れなかったとしたら」汐見俊幸氏（東京大学名誉教授、白梅学園大学名誉学長）エデュカーレ96号からの引用です。

「100年後、10年間ロケットに乗れば、別な惑星に移動する事が出来るようになったとします。それに乗り込んだカップルから子どもが生まれ、その子はロケットの中で10年近い歳月を過ごすとしたら、子どもは人間として育つのでしょうか。私は残念ながらこの子は人間として育たないと思います。…本物の自然現象を体験出来ないからです。その結果、五感を初めとする身体感覚が不十分にしか開発できない。体で実感しながら世界像を作ることができない。そして何より大事なものは、ロケットには細菌があまりいないことです。人の腸内には1000兆個もの数の細菌が生息していて人の健康の維持をつかさどっていることがわかってきています。高血圧、糖尿病、発達障害などの多くが腸内細菌の少なさ、不活発さで生じていることも分ってきました。今、文明化の急速な進展で、ここで危惧したような傾向が徐々に子どもたちに強まっています。保育に自然を、というのは、外の自然と共鳴する子どもの中の自然を豊かにし活性化することが目標なのです。」

人間もそもそも自然の生態系の一部であり共生ですね。子ども達が虫を見つけると直ぐに引き寄せるエネルギーは自分の内蔵を活性化させるためなのだと納得しました。水や泥んこ遊びもこれから始まります。

さて、今月から保育の様子を動画で配信いたします。幼児組は2回、乳児組は1回の予定です。今後慣れてきたら回数を増やします。そして、6月は乳児参観月です。緊急事態宣言が延期となった場合でも廊下、屋外からですので行ないます。お子さんの様子をご覧ください。安心されますよ。一人の人間として友だちと関わり大人と協力して過ごしています。成長を感じられることでしょう。 ※写真 はと組のザリガニ釣り地域交流